

2023年度事業計画書

I. 2023年度事業方針

世代を超えた食文化研究の永続的な発展と、食文化の普及啓発へのさらなる貢献を目指す。
食文化研究者の発掘・育成と研究・交流の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、
成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2023年度事業計画

【年度計画骨子】

ライブラリーリニューアル(2024年)に向けたコンセプト・具体的プランの策定、および「食の文化フォーラム」40周年以降の新体制確立を主軸とし、さらに、新たな公開講座の立案と実施、『vesta』を題材とするミニシンポジウムの企画と実施を新機軸として活動を行う。さらに、ウェブサイトリニューアルを通じた発信力強化と、利用者を意識したコミュニケーションの進化によって、より多くの人に食文化の魅力を知っていただき、財団を活用いただくことを目指す。

1. 食の文化フォーラム

- ① 2023年度 年間テーマ:「間食の功罪:食事とはなにかを逆照射する(仮)」
コーディネーター:野林 厚志 氏(国立民族学博物館)
- ② 「フォーラム 40周年」を越え、新たな世代が中心となりフォーラムが活性化される状態を目指し、食文化研究全体を俯瞰し今後の発展を担う次世代が活躍する場を積極的に創出する。
- ③ 2023年度出版 『東アジアの食ー朝鮮半島を中心に考える(仮)』(2022年度フォーラム成果)電子書籍との併売も視野に、新たなシリーズ書籍として出版する。

2. 食の文化シンポジウム・公開講座

- ① 食の文化シンポジウム(時期未定:2023年9月~2024年3月)
2022年度フォーラムテーマ「東アジアの食」をベースに、複数分野からの登壇者を迎えて多角的に食を論じ、食文化研究の意義と魅力を伝えるシンポジウムを開催する。
- ② 共催シンポジウム(時期未定:2023年10月~12月頃)
人間文化研究機構と共催のシンポジウムを開催、Web配信も併用し広く発信する。
- ③ 新・公開講座
海外留学を目指す学生を主な対象に、食文化への関心を高めるプログラムを企画し実施する。

3. 食の文化研究助成

- ① 応募分野拡大につながる告知方法を検討し、更なる認知度向上を図ることを通じ、幅広い学問分野からの採用を目指し、食文化研究の裾野の拡大を図る。
- ② 既研究助成者の相互交流を促進し、さらなる活躍を後押しすることによって、食文化研究者の増加および研究の拡がりを推進する。

4. 食の文化ライブラリー

- ① 公開図書館・公開展示
高輪移転20周年(2024年)を目指し、長期的視点に立った新時代ライブラリーのコンセプトを確立し、具体的な施設リニューアルプランを作成する。
- ② 所蔵資産の活用
所蔵する「大日本物産図会」を活用した企画展示のプランを策定する。さらに、保有する資産を活用し、外部企画との連動を推進する。

5. 食の文化誌『vesta』

① 普及推進

『vesta』執筆者の登壇を通じ、特集企画をさらに掘り下げて知ることができる、ミニシンポジウム「きく vesta」を新たに企画し実施する。加えて、雑誌(紙媒体)の定期購読拡大施策、デジタル版(Kindle、au ブックパス等)および、映像「みる vesta－食文化の世界－」の更なる普及を通じ、新たな読者の開拓を推進する。

② 2023 年度『vesta』出版

130 号特集「発酵食品のいま(仮)」北垣 浩志 氏 (佐賀大学) (2023/4)

131 号特集「米を食べる文化(仮)」佐藤 洋一郎 氏 (京都府立大学) (2023/7)

132 号特集「在来野菜と伝統作物(仮)」江頭 宏昌 氏 (山形大学) (2023/10)

133 号特集「世界の珍味の今(仮)」伊藤 文 氏 (ジャーナリスト) (2024/1)

6. 食の文化ウェブ・情報発信・コミュニケーション

① ホームページ

ユーザビリティ向上を目指し、デザインを刷新した大幅リニューアルを 2023 年 7 月に実施する。サイト訪問者の動向を追い、各事業の施策と連動してサイトを育成していくことを通じ、当財団の活動をよりわかりやすく伝え、食文化の魅力を追求できるサイトを目指す。

② 情報発信・コミュニケーション

ホームページリニューアルを受け、メールマガジン、Facebook、Instagram、YouTube 等を通じ効果的かつ継続的な発信を行い、食文化への知的好奇心を高めるとともに、関心をもった人々が財団を通じて得る情報や知識に満足し、再訪しつづけられるように財団活動・発信内容を進化させる。

以上